

の標本を手にし、参加者に解説する
国立科学博物館の真鍋真副館長(左端)
—茨城県つくば市



「恐竜博士」が化石解説

国立科博CF返礼ツアー

国立科学博物館(東京都台東区)はこのほど、8月11日開いた。参加者は、貴重な品に9億円超を集めたクラウドファンディング(CF)のドファンディング(CF)の返礼の一環として、寄付した5万円を、5万円を、も見て回り、約2時間のツアーを終えた。

文化

8月7日の初日に目標の...
という横浜市の社員桜井美涼さん(28)は「科博はフォトウエディングを行ったこともあり、何度も訪れた思い出の場所。ずっと続いてほしい」と笑顔を見せた。同館は、新型コロナウイルスの影響で資金繰りが厳しくなってきたとしてCFを始めた。...

アートに潜む「霊性」をテーマにした企画展「頭神の夢—幻視の表現者」が久万高原町菅生の町立美術館で24日まで開かれている。「あの世」と「この世」

のはざまにいてもいえる神職は、展覧会をどう見たのか。三奈良神社(東温市)の宮司で元愛媛大非常勤講師の森正経さんに寄稿してもらった。

現世以外の世界希求



村山槐多「尿する裸僧」(1915年、長野県立美術館蔵)

久万美術館「頭神の夢」展に寄せて 宮司・森正経

現代はあの世を持たない時代とも言われる。この世しか信じないというか、証明できない世界を否定する世界観である。とくに、日本人は無宗教を標榜(ひょうぼう)する人が多いのも確かである。しかし、いまだに盆正月には故郷に帰省し、先祖供養をしたり社寺に参ったりする。現世以外の世界を希求する心情の現れであろう。

私は神主である。この世(頭世)とつしよ(つしよ)にあつてあの世(幽世)かくりよ(くりよ)の神の御阿礼(みあわれ)出現(しゅげん)を乞

一遍連想

そうした表現者たちの中で、私の目に留まったのは、佐藤溪であり村山槐多である。佐藤の作品はヒトを異界に引きずり込む異様さをもち、ついつい見てしまつて

従来の評価に拘泥せず

みがあるが、日常的に對峙(たいじ)することを拒否する非日常性をもつ。怖い! 決して個人では所有したくない「秘仏」でもある。

生命脈動

ところが、一遍は天狗には描かれていない。天狗に助けられる僧として登場する。もちろん「一遍聖絵」や「一遍上人絵伝」には描かれない一遍の姿である。一遍は(裳)もなし衣にアンギン(網衣)を身に付け、同じ僧たちの中でも異彩を放っていた。その異形性を強調すべく、草紙の作者は、万病の薬とありがたがられる「尿する一遍」を異常の極致として取り上げたものであろう。しかし、一遍に師

天狗草紙

私が一遍を連想したのは、「天狗草紙」に描かれた「尿(し)と」する一遍が脳裏をかすめたからである。「天狗草紙」の絵は、京都因幡堂で僧が褌をまくり上げられ、尼僧が差し込んだ竹筒に尿する図である。そして、その尿を「万の病の薬にて候」とのせりふ付きで描かれている。そもそも「天狗草紙」は13世紀末に成立した絵巻で、南都北嶺の諸大寺の僧侶と、当時の新興宗教の中でも反体制派と見なされていた一遍率いる時宗の放下僧らを天狗になぞらえて風刺した作品である。「天狗草紙」によれば天狗の正体はおごり高ぶり、こびへつらいから魔道に堕ちた僧である。

奈良美智さん 創作原点

青森で個展 初公開作など200点



世界的に活躍する美術家奈良美智さんの大規模な個展が、青森県立美術館(青森市)で開かれている。日本初公開の作品や新作を含む約200点を展示。家や「旅」など五つのテーマに分けて構成し、創作活動の原点に迫る。巡回展でなく、同館での単独開催。来年2月25日まで。

文化短信

◆正論大賞に江崎道朗さん 第39回正論大賞(フジサンケイグループ主催)は、麗沢大客員教授の江崎道朗さん(61)に決まった。第24回正論新風賞は東京大教授の阿古智子さん(52)、特別